

認定制度の審査項目	モデルカリキュラム	評価理由	内部評価
(1) 数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI活用の最新動向	【機械工学科】 情報処理IIにおいて、「社会で起きている変化」と「データ・AI活用の最新動向」を学習している。 【電気情報工学科】 情報基礎において、「社会で起きている変化」と「データ・AI活用の最新動向」を学習している。 【電子制御工学科】 情報基礎において、「社会で起きている変化」と「データ・AI活用の最新動向」を学習している。 【建設システム工学科】 情報リテラシーにおいて、「社会で起きている変化」と「データ・AI活用の最新動向」を学習している。	A
(2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域	【機械工学科】 情報処理IIにおいて、「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」について学習している。 【電気情報工学科】 情報基礎において、「社会で活用されているデータ」と「データ・AIの活用領域」を学習している。 【電子制御工学科】 情報基礎において、「社会で活用されているデータ」と「データ・AIの活用領域」を学習している。 【建設システム工学科】 情報リテラシーにおいて、「社会で活用されているデータ」と「データ・AIの活用領域」を学習している。	A
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI活用のための技術 1-5. データ・AI活用の現場	【機械工学科】 情報処理IIにおいて、「データ・AI活用のための技術や適用領域」について学習している。 【電気情報工学科】 プログラミング実習において、動的計画法や数値シミュレーション、機械学習などについて活用事例等を踏まえて、関連項目を学習している。 【電子制御工学科】 制御工学実験において、「制御工学分野」における実験データを活用して実システムのモデリングを行う等、MATLABを用いた実験を行い、関連項目を学習している。 【建設システム工学科】 測量実習において、GPS測量を実施し、最新の技術による位置情報取得やその活用に関する実習を行い、関連項目を学習している。	A
(4) 数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用にあたっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要であること。	心得 3-1. データ・AI活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項	【機械工学科】 情報処理Iにおいて、データ収集ツールとなるメール・インターネット・SNS使用時の個人情報の扱いやデータ倫理を学習している。 情報処理IIにおいて、「データ・AI活用における留意事項」を学習している。 【電気情報工学科】 情報基礎において、「データ・AI活用における留意事項」と「データを守る上での留意事項」を学習している。 【電子制御工学科】 情報基礎において、「データ・AI活用における留意事項」と「データを守る上での留意事項」を学習している。 【建設システム工学科】 情報リテラシーにおいて、「データ・AI活用における留意事項」と「データを守る上での留意事項」を学習している。	A
(5) 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う	【機械工学科】 情報処理IIにおいて、「データを読む・説明する・扱う」についての基本的な活用を学習している。 計測工学演習において、「数理・データサイエンスの基本であるデータの取得と評価」に関することを学習している。 【電気情報工学科】 プログラミング実習において、Pythonにおけるファイル操作について学習した上で、実際の文章ファイルを用いて形態素解析やワードクラウドの作成などを行い、「データを読む、説明する、扱う」ことを学習している。 【電子制御工学科】 制御工学実験において、MATLABを利用して「制御工学分野」における実験データの取得、解析の手法を実践的に学ぶための実験を行い、「データを読む、説明する、扱う」ことを学習している。 【建設システム工学科】 測量実習および建設システム工学実験ⅠA、ⅠBにおいて、実データの取得、Excelを用いた整理・分析、成果報告を行い、「データを読む、説明する、扱う」ことを学習している。	A

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。